

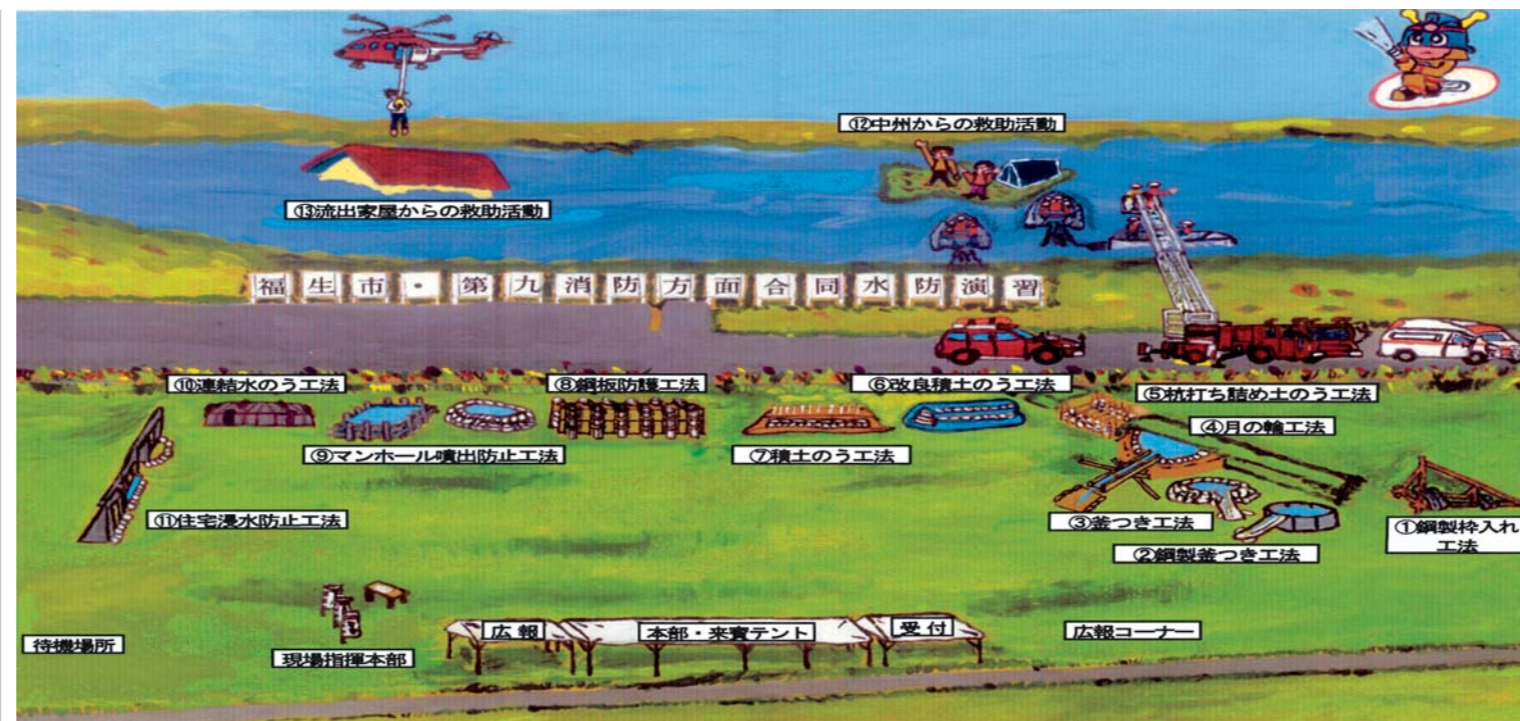
大雨に備えた 大規模水防演習を実施

福生市と東京消防庁第九消防方面では、水害が発生しやすい季節を前に、住民の水害に対する備えと、市・第九消防方面本部・方面内各消防署隊・福生消防署管内各消防団・市内自主防災組織等の水害対応訓練のために去る5月18日(日)午前9時30分から南公園及び多摩川左岸河川敷で「福生市・第九消防方面合同水防演習」を実施しました。

演習には、東京消防庁第九消防方面に所属する福生、八王子、青梅、町田、日野、秋川、多摩、奥多摩の八消防署員と地元の福生市、羽村市、瑞穂町の消防団や町会・自主防災組織・福生消防署災害時支援ボランティアの方々と約700人が参加しました。

その演習内容を紹介させていただきます。

福生市・第九消防方面 合同水防演習現場図



当日演習された各種水防工法



福生市では、台風や洪水時期に備えて、関係機関の協力を得て、災害による被害を軽減し、市民の安全と財産を守ることを目的として隔年実施しています。

今回は、東京消防庁第九消防方面との合同の総合水防演習ということで、大規模な演習となりました。

また、東京消防庁では、5月17日22時水防第2非常配備態勢、5月18日第3非常配備態勢を発令し、消防職員を非常召集して水防態勢の万全を期している。

福生市においては、下水道の整備等により、河川氾濫による水害は、ここ数年起きていません。

しかし、都市型水害として、夏場に短時間で集中的に降る大雨の影響で家屋浸水などの被害が発生する可能性があります。

これは、地表が道路の舗装や建物のコンクリートで覆われ、雨水が地下にしみこみにくくなったため、下水道に雨水が短時間で集中したために許容量を超えてしまったり、道路などの側溝が詰まってあふれ出ることが原因とされています。

水は一度あふれると想像を上回る勢いで増水し、20cm

河川の氾濫で流された家屋に取り残され、助けを求め人を消防へりから必死の救助活動。

市民が安心して生活できるまちづくりを推進していくために

身近なもので 浸水防止

福生市においては、下水道の整備等により、河川氾濫による水害は、ここ数年起きていません。

しかし、都市型水害として、夏場に短時間で集中的に降る大雨の影響で家屋浸水などの被害が発生する可能性があります。

これは、地表が道路の舗装や建物のコンクリートで覆われ、雨水が地下にしみこみにくくなったため、下水道に雨水が短時間で集中したために許容量を超えてしまったり、道路などの側溝が詰まってあふれ出ることが原因とされています。

水は一度あふれると想像を上回る勢いで増水し、20cm

町会・自主防災組織の方々が福生消防署災害時支援ボランティアの皆さんの指導のもと、この工法を実施しました。

間合せ総務課防災係



福生市消防団長及び福生署隊長は、水防危険箇所を監視警戒班を派遣した。さらに台風による豪雨で多摩川が増水し、河川の氾濫等による大規模な水災害の発生した。との、より実践的な状況の想定のもと、警報発令による非常配備体制の召集に始まり、市職員、消防署員による現場調査、消防活動二輪車(通称クイックアタッカー)、消防ヘリコプターの出動を要請の様子、まさに本番さながらの演習となりました。

また、広報展示コーナーでは写真パネルによる水防工法の紹介、各種防災用品の展示などもあり、市民の皆さんに分かりやすい防災の意識の増進を呼びかけました。

この演習を通じさらに過去の豪雨の反省を活かし、市職員をはじめ、関係者の皆様と協働により、災害を未然に防ぐとともに、被害を最小限におさえることにより、市民の生命と財産を守り、市民が安心して生活できるまちづくりを推進することに努めます。

水難救助活動



～第51回福生市消防団ポンプ操法審査会～ 第2分団2年連続総合優勝

去る5月25日(日)、福生市多摩川中央公園で開催された第51回福生市消防団ポンプ操法審査会で各分団から2チームずつ計10チームが参加した中、第2分団が2年連続で総合優勝し、チーム優勝も第2分団Bチームが見事勝ち取りました。

この審査会は、火災防御活動が迅速かつ確実に行えるかを審査するもので、昨年の第50回記念審査会で50年、半世紀の節目を迎えました。そして今年は、新たな第1歩の年でもあり、全チームともに優秀な演技がたく、見事な演技でした。

優勝された第2分団の皆さんは、「日頃の訓練のたまものです。ご指導いただいている諸先輩、分団員の皆さんに感謝します。これからも市民の生命、財産を守るため、一生懸命頑張ります。」と心強く語ってくれました。

間合せ総務課防災係

▲連続総合優勝した第2分団の皆さん